

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」東京第一次訴訟(東京地裁)第9回期日(20220209)提出の書面です。

平成31年(ワ)第3465号 国家賠償請求事件

原告 大江千束 ほか8名

被告 国

証 拠 説 明 書 1 3 (甲 A 号 証)

2022(令和4)年2月9日

東京地方裁判所民事第16部乙合議B係 御中

原告ら訴訟代理人

弁護士 上 杉 崇 子

同 寺 原 真 希 子

ほか

号証 (甲)	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作 成 者	立 証 趣 旨	備 考
甲 A 4 2 5	辻村みよ子・山 元一編『概説 憲法コンメン タール』(信山 社)	写し 2018.6.20	糠塚康江 執筆	憲法24条2項は、婚姻及び家族 に関しては、法律がすべて「個人 の尊厳」と「両性の本質的平等」 に立脚して制定されるべきこと を、立法府に義務として要求する 規定であり、立法府を厳格に規律 統制する規定であること。	

甲 A 4 2 6	「行政法概説 I 行政法総 論（第7版）」	写し	2020.3.20	宇賀克也	あることがらを立法事項とする ことは、国民代表からなる国会の 事前承認を義務づけることによ って国民の権利自由を保護する という自由主義的意識があるこ と（32頁）
甲 A 4 2 7	『日本国憲法 制定の過程 II 解説－連合 国総司令部側 の記録による－』 (有斐閣)	写し	1972.11.30	高柳賢三、 大友一郎、 田中英夫	（憲法24条の原案となった総 司令部案の内容とその後の修正 過程） ・憲法24条の原案となった総司 令部案には、両性の平等、合意に 基づく婚姻の成立、男性の支配で はなく相互の協力による婚姻の 維持等の原則が規定され、「これ らの原理に反する法律は廃止さ れ（ねばならない）」と明記されて いた事実（169頁）。 ・その後上記部分は文言上削除さ れたが、その理由は、すでに最高 法規の章の条文にその趣旨が現 れているというものであり、上記 の趣旨が否定されたものでは無 いこと（170頁）。 （憲法24条1項および同条2 項は立法を強く規律統制するこ

					とを想定された条項であり同条 2項が立法府の広い裁量を認め る規定であるとの理解が誤りで あること)	
甲A 428	『憲法〔第7 版〕』（岩波書 店)	写し	2019.3.8	芦部信喜 〔高橋和 之補訂〕	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法が最高法規であるのは、その内容が人間の権利自由を国家権力の侵害から保護する規範を中心として構成されているからであり（97条）それが最高法規性の実質的根拠であること。この実質的最低法規性が形式的最高峰規性（98条）の基礎をなし、憲法の最高法規性を真に支えるものであること（12頁） ・民主主義は個人尊重の原理を基礎とするので、すべての国民の自由と平等が確保されてはじめて開花するという関係にあること、すなわち、民主主義は単に多数者の支配の政治を意味するものではなく、実を伴った立憲民主主義であると考えられること（17頁）。 ・違憲審査制は、議会の制定する法律によって独裁が生まれ人権 	

					<p>が否定された第2次世界大戦時の経験から生まれ、戦後の新しい憲法では、人権を法律から（も）保障する必要があるという趣旨から、違憲審査制が広く導入されたこと（389頁）。</p>
甲 A 429	意見書『憲法理論からみた同性婚の省察』	写し	2022.2.1	渋谷秀樹	<p>・憲法24条1項が保障する婚姻の自由は、同条の背後にある中核・根本規範（11頁）や個人の尊重という憲法の基本理念（13条）に遡り（2頁、6頁・非原意主義）、精神医学的・心理学的知見（11頁）、世界の動向及び国民意識（10頁）等、現行民法戸籍法の諸条項を支える立法事実が根本的に変わったことに照らして解釈すれば、憲法制定時想定されていなかった同性間の関係についても異性間と同程度に及ぶと解されること（13頁から14頁）。</p> <p>・同性間の婚姻を認めない本件規定は、憲法24条1項（13頁）及び憲法14条（14頁）に違反すること。</p>

					<p>・澁谷教授は、従前「同性間の婚姻が異性間の婚姻と同程度に保障されると解することは憲法の文言上困難」としていたが（乙13「憲法」〔第3版〕463頁）、本意見書をもって改説なさり、上記も、次回改訂で「憲法は同性間の婚姻にも異性間の婚姻と同程度に保障している」とする予定であること（15頁）。</p>
甲A 430	『体系憲法訴訟』	写し	2017.4.27	高橋和之	<p>国会議員は国民に直接選挙されるのに対し、最高裁判事はそうではない。一般論としては国会の判断のほうが国民の意見をより正確に反映していると思われがちである。しかし、憲法は、そのことを承知の上で、最高裁に違憲審査権を与えた。そのため、法律が人権を侵害しているかどうかの判断に関しては、最高裁の判断が優位するというのが制憲者の意図であると考えられること（20頁）。</p>
甲A 431	『立憲主義と日本国憲法〔第	写し	2020.4.15	高橋和之	<p>・政治部門による民主的判断を尊重すべき場合は、政治プロセスの</p>

	5版)』				<p>民主性が確保されているときに限られること(461頁)。</p> <p>・また、制憲者は、民主的性格のより小さい、かつ国民からも独立している裁判所に違憲審査権を与えたのであるから、裁判所こそ、立法府をコントロールするのにふさわしいという意図があったと考えられる。その意図こそ尊重されるべきである(すなわち、司法消極主義が裁判所の原則的な態度にはならない)こと(461頁)。</p>
甲A 432	『日本国憲法論〔第2版〕』	写し	2020.9.20	佐藤幸治	<p>・裁判所は、個人の基本的人権の保護、個人や少数者が政治社会過程から不当に排除されることのないよう配慮し、立憲民主主義過程の維持保全に原理面において積極的に寄与していくことが期待されること(679頁)。</p> <p>・裁判所が、文言と構造・制憲者の意思・従前の法的決定との関連性に十分配慮した憲法解釈に努める限り、違憲審査権行使が反民主主義的であるとの批判に怯む</p>

					必要はないこと（679頁）。	
甲A 433	『行政法I〔第6版〕』	写し	2015.7.25	塩野宏	社会が高度化して生活が都市化する中で、個人の生活の国家・地方公共団体への依存性の増加が指摘されていること（9頁）。	
甲A 434	渋谷区パートナーシップ証明実態調査報告書	写し	2017.11.5	渋谷区	2015年11月にスタートした渋谷区のパートナーシップ証明制度により証明書の交付を受けた人々に対する調査において、証明書の取得をきっかけに区への親近感や関心が増大したとの回答が相当数見られること。	
甲A 435	意見書	写し	2021.12.20	大野友也	同性婚を認めないことは、憲法14条1項後段で差別禁止事由として挙げられている「性別」に基づく差別にあたること。	
甲A 436	『憲法 解釈論の応用と展開〔第2版〕』	写し	2014.7.25	宍戸常寿 ほか	別異取り扱いが程度問題ではなく、all-or-nothingの問題である場合には、端的に区別の合理性（婚姻の可否について性的指向や性別で線引きすること自体の合理性）の有無を憲法上の価値判断や立法事実を照らして正面から問うべきと考えられること（113頁）。	

甲A 437	『民法正義 人事編 卷之 壹(上下)』	写し		熊野敬三 岸本辰雄	旧民法起草者らが、禁治産者は婚姻をなしうるかという問題について、禁治産は財産管理権を制限する制度にすぎず婚姻を制限する規定もないこと、意思能力を有する状態であれば婚姻を妨げる理由も無いこと等を指摘し、「 <u>婚姻は各人天賦の権利</u> にして之を剥脱するは允當〔いんとう〕と謂うべからず」(191頁)と強調し、婚姻がすべての人に認められるべき「天賦の権利」であるとの観念に立って婚姻の要件・保護対象を論じていた事実。
甲A 438	『裁判医学提 鋼前編』	写し	1888(明治 21)・2・27	片山國嘉 ほか	1888年(明治21年)に出版された医学書において、同性愛(反動的陰部感覚)が精神疾患として取り上げられていること(252頁～253頁)
甲A 439	『精神病学集 要前編』	写し	1894(明治 27)・9・14	呉秀三	1894年(明治27年)に出版された医学書において、同性愛(色情転倒症)が精神疾患として取り上げられていること(160頁)。

<p>甲 A 440 の 1, 2</p>	<p>意見書</p>	<p>写し</p>	<p>2021・10・ 16 2016・3・31</p>	<p>日高康晴</p>	<p>・LGBT当事者においては、いじめ被害、自傷行為、自殺未遂の経験率が非当事者に比べてきわめて高いこと。</p> <p>・LGBT当事者に対する差別的扱い、偏見などに起因する生きづらさを軽減するためには、法律をはじめとする社会的システムの中に異性愛以外の性的指向を肯定的に捉えていくこと、異性愛者と平等な扱いをしていくこと、多様な性自認の有り様を尊重していくこと等が重要であること（9頁）。</p>	
-----------------------------------	------------	-----------	--------------------------------------	-------------	---	--